

トピック(テーマ)	川井訓導事件		
ねらい	大正13年9月5日、松本女子師範学校附属小学校の川井清一郎の修身の授業をめぐる引き起こされた事件。修身の教科書を使用していなかったことを問題視された。大正自由教育の広がりのもと、県教育当局と信濃教育会との対立・抗争にまで発展していく。		
キーワード	川井訓導事件 川井清一郎 樋口長市 森鷗外 護持院ヶ原の敵討 修身の教科書 大正自由教育 伝田精爾 西尾実 松本女子師範学校附属小学校		
概要を知るためのツール	1	書名	長野県政史 第2巻
		著者名	長野県
		出版社	第一法規出版
		出版年	1972.3
		内容紹介	「第四編 長野県政の展開(大正) 第四章 大正ドモクラシー期の教育・文化 第二節 信濃教育会と県政 二 行政当局と信濃教育会の抗争 川井訓導事件と信濃教育会」 川井訓導事件が、県に任命された視学委員樋口長市と県学務当局によって計画的に引き起こされたことが指摘されている。その後、県と信濃教育会とは対立した時期を経て、信濃教育会は県教育行政の中で立場を強固にしていった。
	2	書名	長野県教育史 第3巻 総説編3
		著者名	長野県教育史刊行会
		出版社	信教印刷
		出版年	1983.3
		内容紹介	「第四章 近代教育の展開 第二節 初等教育 三 自由教育への展開 自由教育の展開と弾圧」 県当局が文部省の通牒を受け、副教科書・参考書などの使用について指導監督の徹底を図るなかで、川井清一郎の授業を問題視した事件。
資料リスト	1	書名	長野県教育史 第14巻 史料編8
		著者名	長野県教育史刊行会
		出版社	信教印刷
		出版年	1979.3
		内容紹介	「川井訓導事件」 雑誌『信濃教育』編輯主任西尾実の書簡、松本女子師範学校附属小学校主席訓導伝田精爾の報告・引責退職、川井清一郎の事件経過報告と感想など 事件関係者の事件に対する考え、とくに編輯主任西尾実は当時の長野県教育界の動向や教育実践について確固たる考えを持ち、教育界を動かしていたともいえるので、彼の書簡や伝田精爾の日記は重要である。
	2	書名	信州近代の教師群像 続
		著者名	中村一雄
		出版社	東京法令出版
		出版年	1995.9

		内容紹介	「13 国語 美術教育の新展開 西尾実 信州教育受難期の雑誌編輯主任 川井訓導事件への対応」 西尾実は大正11.9～14.2の間、雑誌『信濃教育』の編輯主任をつとめた。この間に県当局は気分教育批判、東西南北会派排除の教員人事など起こり、雑誌上で、信州教育の進むべき方向を追求した。 川井訓導事件では、大正14年5月、雑誌『信濃教育』463号で「川井訓導事件の修身教授問題」を特集している。
	3	書名	民間教育史研究事典
		著者名	民間教育史料研究会
		出版社	評論社
		出版年	1975.8
		内容紹介	「自由教育、川井訓導事件」 上記の項目に関し、簡潔に概要を知ることができる。
	4	書名	信州近代の教師群像 続
		著者名	中村一雄
		出版社	東京法令出版
		出版年	1995.9
		内容紹介	「14 自由教育の受難 川井訓導事件と伝田精爾」 川井訓導事件の背景 事件とその反響 伝田主席訓導の辞職ほか 松本女子師範学校附属小学校の主席訓導だった伝田精爾の事件後の経歴などにもふれている。
雑誌	1	論題名	①補助教材、特に副読本について ②所謂副教科書問題 ③松本女師附属事件考察
		筆者名	西尾実
		出版年	①1924.6 ②1924.7 ③1925.3
		雑誌名	信濃教育
		巻号頁数	①452号 ②453号 ③461号
		内容紹介	雑誌『信濃教育』編輯主任西尾実の諸論考である。 ①②は川井訓導事件が発生する前に、すでに文部省・県学務当局の意図を察知して、補助教材、副読本、副教科書問題に関し、その意義について論じたものである。
	2	論題名	①修身書の取扱いについて ②視学委員視察当日を顧みて
		筆者名	①川井清一郎 ②伝田精爾
		出版年	1924.10
		雑誌名	信濃教育
		巻号頁数	456号
		内容紹介	川井訓導事件の直接の当事者2人の論考である。事件の証言ともなっている。
	3	論題名	「川井訓導の修身教授問題」の特集号
		筆者名	三宅雄二郎、沢柳政太郎、阿部次郎、岩波茂雄、和辻哲郎など
		出版年	1925.5
		雑誌名	信濃教育

		巻号頁数	463号
		内容紹介	「川井訓導の修身教授問題」 編集主任西尾実の尽力で、錚錚たる執筆陣15人が論を展開している。 当事者の川井清一郎は「経過と感想」の文を寄稿している。
	4	論題名	川井訓導事件楽屋話
		筆者名	伝田精爾
		出版年	1956.12
		雑誌名	信濃教育「七十周年記念号」
		巻号頁数	841号
		内容紹介	事件後三十年余を経て、主席訓導であった伝田精爾の回想記である。 大正14年の特集号で当時一流の評論家・学者を動員できたのは、岩波 茂雄・島木赤彦の骨折りであったことが、直接岩波本人から聞いた話と して紹介されているが、興味深いエピソードである。
インターネット 情報	1	サイト名	信州地域史料アーカイブ 7.教育、人物・伝記
		URL	<a href="https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11F0/WJJS07U/2000515100/2000515100100070/mp70201060">https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11F0/WJJS07U/2000515100/2000515100100070/mp70201060</a>
		概要	解説付き映像資料 信州の教育文化遺産 大正～戦前 前編(大正) 川井訓導事件
	2	サイト名	国会図書館デジタルコレクション
		URL	<a href="https://dl.ndl.go.jp/">https://dl.ndl.go.jp/</a>
概要		「川井訓導事件」で検索すると、多数の資料が搭載されていることがわ かるが、多くが国立国会図書館/図書館送信限定 となっている。	
新聞	1	見出し	川井訓導事件とは 自由教育への弾圧
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊23ページ
		年月日	1992.2.20
	2	見出し	川井訓導事件伝えたい 70周年 冊子
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊20ページ
		年月日	1994.5.10
	3	見出し	自由から統制へ(3)松本の教育弾圧
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊13ページ
		年月日	2017.7.25